

令和5年度第2回狭山市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催日時 令和5年7月26日（水）午前10時00分～午前11時30分

開催場所 中央公民館第1ホール（狭山市市民交流センター3階）

出席者 吉田敦委員（会長）、久保田委員（副会長）、吉田樹委員（アドバイザー）、関根康洋委員、関根肇委員、霜村委員、岩澤委員、中野委員、関口委員、吉田三男委員、増田委員、栗原委員、佐藤委員、烏山委員、高橋委員、苅谷委員、坂井委員、小河委員、北条委員、瀧澤委員、古川委員、中畠委員、大石委員、村井委員、神田委員、鷹野委員、田中委員（27名）

欠席者 藤田委員、梅田委員（2名）

代理出席者 なし

事務局 田中市民部長、増田市民部次長、日出間交通防犯課公共交通担当課長、堀越主査

傍聴者数 8名

議題等

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）狭山市堀兼地区デマンドバス実証運行計画書（見直し案）について

（2）狭山市地域公共交通計画（現況編）（案）について

（3）その他

4. 閉会

会議の経過、質疑等の内容

1. 会長あいさつ

2. 会議の成立及び会議の公開の確認

委員総数29名のところ、委員本人が27名出席していることから、会議が成立していることを確認するとともに、会議は、堀兼地区デマンドバス実証運行計画書の見直しや地域公共交通計画の現況編の報告となることから、原則どおり公開することが決定された。

以下、吉田会長が議長となり、議事を進行した。

協議事項（1）狭山市堀兼地区デマンドバス実証運行計画書（見直し案）について

<概要>

堀兼地区デマンドバス実証運行計画書（見直し案）について、資料1、資料2に基づき説明を行った。賛成多数で当該見直し案が承認された。

<質疑>

委員 2点ほど質問がある。1つ目は運行の目的で、どういった人たちを救うために運行しているのか、「午後6時に延長する」などのニーズが高いとのことだが、アンケート調査は選択肢が限られるので、回答者はどこかに○をつける。午後6時に延長することで誰に利用してもらうことを想定しているのか。2つ目は運行経費で、午前8～9時台の車両を2台から1台に少なくすると、利用者に対応しきれないのではないのか。

事務局 交通空白地域の移動手段の確保、高齢者の移動手段の確保、既存の公共交通との連携確保の3つを目的としている。時間の延長について、午前中はデマンドバスの利用者が多いことは事実であるが、現状では車両2台でなければ対応しきれないという状況ではない。利用者が増えて午前中の利用がひっ迫するようであれば、対応を考えていきたい。

委員 時間帯別の利用者数を示すと良いと思う。3年目までに収支率30%を目標にかかげている中で、あと5倍の利用者が必要となる。午前8時から9時の1時間に対応できる人数は限られる。車両台数を増やすと収支との均衡が難しくなる。データやリスクを共有して、どこを便利にすべきか、どこに制限をかけていくのか、デマンド・ラボで議論してほしい。

委員 資料2の3ページの電話予約について、電話予約は午前8時～午後4時までとあり、希望時間の30分前までとある。今後、午後5時30分までとなるのか。

事務局 オペレーターの勤務体制は午後4時までと考えている。他市町村の事例も参考にして、電話予約は午後4時まで、午後4時以降はWeb予約で対応したいと考えている。

委員 運行目的の一つとして、高齢者の利便性確保ということだが、デマンドバスは車いすや足の不自由な人にとっては利用できない。実証運行ということだが、移動難民への利便性確保はどのように考えているのか。

事務局 介助付きであれば利用することができる。重度障がい者や高齢者障がい者については、福祉施策としてタクシー助成券またはガソリン助成券を配布している。車いすに乗った状態での乗車はできない状況になっているので、今後検討していきたい。

委員 地域の中に困っている方がいるので今後検討してほしい。

議長 見直し案への変更日はいつからになるのか。

事務局 令和5年10月から変更していきたい。

報告事項（1）狭山市地域公共交通計画（現況編）（案）について

<概要>

資料3に基づき、狭山市地域公共交通計画の策定に向けた現況データの説明を行い、資料4に基づき、今後実施していく市民アンケート調査や関係者ヒアリングなどの調査実施計画書（案）について説明を行った。

<質疑>

委員 資料3の4ページからの人の動きについて、市外からの流入が多いことはどういった理由なのか。

事務局 工業団地が多数立地していること、私立の小中学校、高校、大学が立地していることが考えられる。

委員 資料では将来的に人口減少が続くことが見込まれているが、近年市内では若年層を中心に人口が増加していると聞いていたがどうか。

議長 人口の増加については、社会増のことであり、転入者は増加している。しかし、出生者数よりも死亡者数が多いことから相対的に人口は減少しているが、社会増

の影響で人口減少が抑制されている。

委員 本日は現況編で、今後、計画編が追加されていくと思うが、ほりかねデマンドバスを含めた公共交通の主要なターゲットについて、ここで議論されることが重要だと思う。先ほどの運行計画見直し案もほりかねデマンドバスの位置づけがどこで議論されているのかが少し疑問がある。今後、ほりかねデマンドバスを他の地域にも拡大していくことも考えられる。茶の花号も利用者が少なく、運行本数も少ない。デマンドバスをこれから拡大していくこと、計画に位置づけていくことなどをどのように整理していこうとしているのか。

事務局 西武バスや茶の花号などの既存の公共交通やほりかねデマンドバスの役割分担を整理し、アンケートの分析などにより、市内外の移動について目的や時間帯などどういった移動ニーズがあるのかを把握したうえで、計画に位置づけていきたいと考えている。

議長 地域の実情は、地域によって様々であり、交通空白地域も存在している。移動できないエリアに人が住むことが難しいことから、移動手段を確保することがまちづくりを考えるうえでは重要となる。新たな交通手段を検討することも含め、バスやタクシー、鉄道など既存の公共交通との連携を考えるなかで、どのような公共交通が狭山市にあれば住みやすくなるのかを検討していきたい。

委員 茶の花号は利用者が少ないが、多くの公費を投入している。このままいけば底なしになるのではないかと心配している。

事務局 負担の問題もあるが、交通事業者との役割分担の中で、運行形態を見直し、守備範囲を切り分けて、経費の圧縮を図っている部分もある。交通事業者と協議しながら、効率的・効果的な交通に再編していくことが協議会の役割となる。

委員 地域特性について、もう少し踏み込んで作成してほしい。例えば、12ページの自動車の保有状況について、狭山市全体の保有台数だが、地域差があると思う。自動車がなければ生活できない人も多く、高齢者が運転している。2,000票のアンケートで地域特性が把握できるのか。

事務局 アンケートは地域別に集計とりまとめを実施していく。地域特性に対応した形で実施していきたいと考えている。人口規模に応じて、統計的な観点から配布数は2,000票としている。

議長 地域の実情をより深く把握する必要があるのであれば、自治会の協力を得るな

どの工夫をしてほしい。

委員 気になったのは資料3の23ページで、ほりかねデマンドバスの評価検証を行いながら、持続可能な地域公共交通を構築していく考え方が示されている。高齢化が進んでおり、今後10年程度は後期高齢者が増加していく。どういう人に利用してもらいたいのか、どういったシーンで利用してほしいのかを踏まえて、持続可能で最適な地域公共交通を検討することが必要となる。21ページで、茶の花号の収支率が悪く、特別交付税で運行経費の4割を補っているとのことで、国が補助を出してくれないわけではない。仮に、デマンド交通を堀兼地区以外の他のエリアに横展開すれば、運行経費が下がるのかは疑問がある。19ページの茶の花号の1便あたりの利用者数を見ると、運行本数が少ない状況に対して1便あたりの利用者数はある程度見られる。デマンド交通やタクシーでは、1時間に3、4人しか運べないが、茶の花号は、1便あたりの利用者数で3人を割り込んでいるルートは少ない。デマンド交通の場合は、茶の花号以上に車両台数を増やさなければいけない可能性があり、どのような運行形態をとっても現在よりも運行経費がかかる可能性がある。アンケートにおいて、自家用有償旅客運送の意向なども質問している。まずは、西武バスの路線バスを含めて、茶の花号やデマンドバスをどう考えていくのか、供給面の考察やシミュレーションをしっかりと行うことが必要であると思う。それから、アンケート調査について、狭山市全体の移動やニーズをマクロに捉える場合、2,000票は十分な票数だと思うが、地区ごとに分析する場合はもう少し踏み込んだ調査や分析が必要だと思う。他地域で取り組んだことでもあるが、1地区で決められた費用の中で公共交通の運用を考えてもらうなどの手法も考えられる。

委員 重要な議論が多くあったと思う。地域ごとの違いに対して、どのように対応していくのか。アンケートによる手法もあるし、地域ごとに考えてもらう仕組みもある。他地域では、地区別分科会などを立ち上げて、その中でルートやダイヤを考える手法もある。持続可能な地域公共交通の観点について、本日の議論の中でも現在の運行経費がどこまで増加しているのか懸念する声があった。例えば、アンケート調査において、ニーズを中心に質問することを想定している。この場合、多くの要望が出てくることが想定される。どこかで財政的な限界が来て、どこかでサービスレベルを我慢してもらうことが必要となるため、リミットに対する質問を追加することも考えられる。税金を投入してでもサービスを拡充するのか、メリハリをつけるのか、コストとメリットの関係性を質問することも有効であると考えられる。そういった質問もアンケート調査に追加しても良いと思う。委員の皆さまと、地域の声を踏まえて、良い計画を作っていければと思う。

～ 副会長挨拶により閉会 ～

配布資料等一覧

- 次第
- 座席表
- 狭山市地域公共交通活性化協議会委員名簿
- 資料1 ほりかねデマンドバス登録者アンケート結果概要
- 資料2 狭山市堀兼地区デマンドバス実証運行計画書（見直し案）
- 資料3 狭山市地域公共交通計画（現況編）（案）
- 資料4 アンケート・ヒアリング調査の実施計画書（案）